

キャラクター名  
惟喬イチル(これたか いちる)

プレイヤー名

シンドローム	オルクス ノイマン	ワークス	UGN支部長A	カヴァー	高校生
オプション		年齢	17(戸籍上)	性別	女
覚醒	忘却	衝動	解放	初期侵食率	35 %
出自	遙か遠く、太古の隠れ里	経験	恩人/義父、片月義弘の存在	邂逅	片月義弘の死去

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0	1	0			1	行動値	12
感覚	1	0	3			4	(非装備時)	12
精神	4	0	0			4	戦闘移動	17
社会	3	0	0			3	全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	4	
運転:	2		芸術:オーケストラ			知識:レネゲイド	2		情報:UGN	4	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
↑79		2r+4				要の陣形Lv2,導きの華Lv2,アドヴァイスLv2
↑80(侵:8)		3r+12				要の陣形Lv3,導きの華Lv3,アドヴァイスLv3
↑100(侵:8)		4r+17				要の陣形Lv4,導きの華Lv4,アドヴァイスLv4
↑100(+女神)(侵:8)		4r+29				要の陣形Lv5,導きの華Lv7,アドヴァイスLv4,勝利の女神Lv4

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
指揮棒	
セーフハウス	
情報収集チーム	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
D「起源種」	P 連帯感	N 猜疑心		
湖月ひかり殿(学校では呼び捨て)	P 友情	N 不安		
氷咲十夜殿	P 友情	N 頭が高い		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 14    残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
導きの華	5	4	Xジャー	視界	単体	自動		
効果:	達成値Lv×2							
要の陣形	3	3	Xジャー	3体				
効果:	行動対象三体に変更 シナリオLv回							
アドヴァイス	2	4	Xジャー	視界	単体	自動	-	
効果:	対象のC値-1/判定D+LV個							
支配の領域	1	6	オート	単体				
効果:	対象の判定Dの一つを1に変更できる。1シナLv回							
勝利の女神	2	4	オート	単体			100	
効果:	対象の達成値LV×3/1R1回							
妖精の手	1	4	オート	視界	単体	自動	-	
効果:	対象の判定Dの一つを10に変更できる。1シナLv回							
不可視の領域	1	-	Xジャー	至近	-	自動	-	
効果:	余のばーそなるすべーすぞ!							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

一人称: 余,私  
二人称: 呼び捨て,君,奏者

「私、惟喬イチルと申します。ふふっ仲良くしてくださいね」(一般人の前)  
「次の奏者は貴公からか、うむ。存分にたのませるがよい。不協和音は許さん。」(UGNおよびオーヴァードの前)

とある劇場を拠点とするUGNの支部があった。10年程前そこにひとりの少女が倒れていた。その当時の支部長及び劇場の管理者に拾われる。衰弱しきった彼女を保護し、UGNにゆだねられる。過去の記憶こそないがオーヴァードとしての素質、無意識的に領域を司る事に長けており、微弱ではあるがきちんと制御をできていた為そのままN市のチルドレンとなる。容姿が小学生のように見えたため地元の小学校に入り、そのまま高校生まで人間の学生そのもののような生活を送る。劇場ということにあり芸事音楽事に触れる機会が多くなにより義父の片月義弘率いる楽団の音楽士として、片月の指揮棒を振る姿に見惚れ、指揮を習い指揮棒を握りはじめる。中学に上がろうとする頃義父である片月義弘が任務中死去。悲しみに暮れるがその分の穴埋めを自身がしないと躍起になる。遺言に大学まで不自由なく育てるようにと記述があったため変わらず劇場の元に拠点を置き、片月義弘が団長を務めていた楽団の指揮も、支部長の席と共に譲り受ける。普段から指揮棒をもっており事あるごとに振り回すのがお好きな様子。激昂すると叩き折る。

-途中